

無料

# すくらむ

かわさきの男女共同参画情報誌



vol.

80

2025.3

<https://www.scrum21.or.jp/>

防災になぜジェンダー視点が欠かせないのか  
～日頃の備えから避難所運営まで～

# 防災になぜジェンダー視点が 欠かせないのか

今年で阪神淡路大震災から30年。東日本大震災をはじめこれまでの災害からは、防災に関する多くの課題が見えてきました。そのうちのひとつが「ジェンダーの視点」。防災に関する政策や方針を決める過程、そして避難所の運営などにおいて女性参画の拡大が求められています。今号では、「なぜ女性の参画が必要なのか」について、被災地での調査に携わる池田恵子さんに教えていただきました。

## 女性の被災経験

災害の被害や避難生活の困難に性別や立場によって違いがあることは、よく知られるようになりました。令和6年能登半島地震では、女性たちから次のような声が聞かれています（「令和6年能登半島地震女性の経験と思いに関するヒアリング調査」より）。

### ① 健康・安全・尊厳

- ・更衣室が用意されず布団の中で着替えていた。プライバシーを守るのは後回しになっていた。
- ・お風呂に入れず下着も替えられないなか、女性特有の辛い症状を我慢していた。
- ・物資の担当者は男性ばかりで、男性が見ている傍で下着を選ばないといけなかった。
- ・女性へのつきまとい事件が起きても、警察の対応はブザーを配っておしまいだった。

### ② ケア労働

ボランティアが入る前は炊き出しに一日7時間使い、睡眠が2、3時間しかない日が続いた。次々に炊き出しをする女性が辞めて行っても、男性達が担うことはない。

### ③ 仕事・生業

二次避難後に何度も辞職を迫られ、自主退職扱いで仕事を失った。家族・親族の世話のため、すぐに職場復帰できるはずがないのに。

### ④ 意思決定への参画のしにくさ

大半の避難所で責任者は男性だった。女性は、同じ地域の人が集まっている避難所で何か言ってしまうと、その後住みづらくなると思い、言えなかった。

男性の方が多く経験する災害時の問題もあります。避難所の運営をはじめ、多種多様な役職が男性に集中する負担は、典型的な問題です。東日本大震災では、男性の間でより飲酒量が増加し、自殺率が上昇しました。このことと男性への責任の集中は無関係ではないでしょう。また、災害後の孤独・孤立は男性に多く、孤独死の7-8割は男性が占めています。しかし、性別の視点による災害支援が当たり前になっていない日本では、男性の困難が顧みられることもほとんどありません。

女性は災害を乗り越える知恵と能力をもつ存在でもあります。女性の力は、令和6年能登半島地震でも、発災当初から発揮されました。彼女らが自主的に行った活動は、SNSを駆使し被災者自ら炊き出しをしなくて済む仕組み、在宅避難者にも届き安否確認もできる物資配布、避難所内の子どもの居場所、二次避難先の相談窓口など多岐にわたります。少数ですが、避難所の運営を任された女性もいました。彼女たちは、自らの意思で、活用し得る資源と知識を総動員して支援活動を行いました。しかし、住民組織の「区長」等のなんらかの「役」についていたわけではなかったので、意思決定過程に十分に参画できていなかったことが、力を発揮する際の大きな足かせとなりました。

## 背景にある日常のジェンダー課題

これらの課題は、東日本大震災など過去の大災害でも起きていました。なぜ、同じ問題が繰り返されるのでしょうか。

まず、災害が起こると性別で役割を分担して乗り切ろうとするため、普段の性別役割分担が強化される傾向があります。例外はあっても、多くの避難所では男性は力仕事と意思決定を担い、女性は炊事、掃除、ケアに従事することが一般的です。仮設住宅の自治会でも同様です。次に、防災に関わる職業や地域の役職は、圧倒的に男性が多いという現実があります。地域レベルでは防災の基盤は自

## 池田 恵子 さん



減災と男女共同参画研修推進センター共同代表。静岡大学グローバル共創科学部教授。専門は、社会地理学。多様な人々の視点に基づく防災体制づくりのための調査と研修を行っている。避難所運営などの手引き(静岡県「みんなが共に支え助け合う防災ブック」、佐賀県立男女共同参画センター「男女共同参画の視点を取り入れた災害時避難所運営の手引き」など)、教材(京都府・京都市「きょうとみんなの防災カード」など)の作成にも力を入れている。

治会・町内会であるため、役職者のほとんどが男性です。行政においても、内閣府男女共同参画局の調査(令和5年度)によると、危機管理部署に女性が一人もいない市区町村は約57%、災害対策本部に男女共同参画部署の長も、女性職員も参画していない市区町村は53%もありました。

男女それぞれに多くみられる被災の困難は、このような日常の性別役割やジェンダー格差が現れ出たものすぎません。職場で非正規労働者が多い女性が先に職を失い、性暴力対策が重視されない問題も、普段の社会の姿を反映しているのです。

### ジェンダーの視点とは

改めて防災におけるジェンダーの視点とは何かについて、男女それぞれが必要とする支援内容を3種類に分けて考えてみましょう(下図)。1つ目は、体のつくりの違いから必要とされる支援です。これは厳密にはセックス(生物学的な性差)の問題であり、ジェンダー(社会文化的な性差)の問題ではありません。2つ目は、現状で男女が担うことを期待される役割に沿った支援です。そして3つ目は、固定的な性別役割を変える支援です。2つ目と3つ目がジェンダーの視点です。

災害時の女性支援というと、1つ目の視点だけで十分と考える人もいますが、これだけでは被災を乗り切ることはできません。女性が乳幼児や高齢者のケアを担うこ

とが多い以上、2つ目の視点による支援を行わなければ、ケアが必要な要配慮者のみならず、家族全員の健康と命を守ることが難しくなるからです。しかし、これらの支援だけでは、災害を通して性別役割がさらに固定化され、女性がますます意思決定から排除されることになりかねません。そこで3つ目の視点、女性も意思決定に参画していくための支援が必要になります。この視点がないと、冒頭で指摘したような災害時の女性の問題が繰り返し発生。災害時のジェンダーの視点とは、この3つの支援をバランスよく行うことによって、男女双方が被災の困難を減らし、災害に強い社会に向けて力を発揮できるようにすることだといえます。

性別だけでなく、年齢、障がいの有無、家族構成、性的指向・性自認、就労状態、ケア責任の有無など多くの要因によって、被災の状況は一人ひとり違います。女性に限らず、政策や現場での方針に多様な人々の意見を反映できず、災害対応の視点や発想を豊かにし、多様な視点で備えることが可能となります。

災害時には、社会で不利な立場に置かれ普段から発言権が弱い人々の被害が大きくなりがちです。また、これらの格差を放置している社会では、全体として被害が拡大する傾向があります。平常時にある格差や不平等の問題をしっかりと見据え、男女、多様な集団によって異なる災害の影響を理解し、男女が持っている能力を正當に評価した防災・災害対応を行う必要があります。

### 図 性別の視点とは

1

#### 体の作りに応じた支援

- ・物資(例：生理用品)
- ・更衣室 ・授乳室 ・トイレ

2

#### 日常の性別役割に沿った支援

- ・女性は、食事の用意、育児・介護
- ・男性は、リーダー役

3

#### 固定的な性別役割を変える支援

- ・役割分担を性別で決めつけない
- ・女性も意思決定の場へ参画

# すくらむ21「防災プロジェクト」のあゆみ

ここでは、地域の男女共同参画センターとして、市民グループとなって11年目を迎える「女性の視点でつくる

## 2011 平成23年

### 東日本大震災により市に避難をしている女性たちへの支援活動をきっかけに

#### 物資の提供と相談の中から見えた課題

##### 【支援物資の募集と提供】

被災地から市内に避難してきた女性たちに、行政や市民団体等の協力を得て、期間限定で女性たちが必要としていた日用品、化粧品、サイズの選べる下着、子ども服や乳幼児の用品などを中心に、物資を集めました。市民ボランティアの協力を得て仕分けしたものを一時的な避難所となった等々力アリーナへ届け提供しました。

##### 【女性の悩み相談&健康相談の実施】

物資の提供と並行して、女性の相談員、保健師の協力を得て、心の不調、体の不調等の悩みや要望について個別相談できる「女性の悩み相談&健康相談」の相談会を予約制で実施しました。

「女だからと仕事を失った。求められるケア役割や責任が重い。」

「被災地では着替えや授乳できる場所がなく辛い思いをした女性や子どもがいた。下着が干せないから着て乾かしていた。」

「不眠が続き、母子避難で子どもの前では泣かないように我慢している。母乳の出が悪くて悩んでいる。」

#### 女性避難者のためのほっとサロン

- ・ 東日本大震災で被災し、川崎市内に避難している女性の避難者のためのほっとサロンを2011年12月8日より、毎月1回開催。
- ・ サロンは、参加者が心身ともにリラックスして参加できる居場所。「女性同士の交流の場」「今のこと、これから先のことなど悩みや困りごとを共有できる場」「あなたがあなたらしくいることを大事にする場」として開いています。



## 2012～2013 平成24年～25年

### 女性の視点が置き去りにされていることへ疑問と不安を感じた市民といっしょに

川崎市男女共同参画センターでは、「配布して終わりにしない防災冊子を作りたい」「女性の視点から考える防災冊子を市民と一緒に学びながら制作できないか」と考えました。そこで、市民公募で防災冊子を制作するための準備メンバーを集めることにしました。



#### (2012年9月)

##### 防災冊子を制作するための準備メンバーを募集

集まった市民公募のメンバーにすくらむ21でインターンシップをしていた大学生が加わり「女性の視点でつくるかわさき防災プロジェクト」として、勉強会を始めました。プロジェクトは2つのグループにわかれ、①情報収集や情報発信、調査活動、②女性の視点を活かした防災講座の企画・実施、防災冊子の利活用の道筋づくりを行いました。メンバーたちは、勉強会を通じて、災害時のひとり暮らしの女性の直面する困難の大きさを知り、2種類の防災冊子の作成を提案しました。

冊子は、地元の編集者の協力を得て、「女性の視点で作った防災手帖シニア版」「ひとり暮らしの女性のための防災BOOK」として発行しました。

#### 女性の視点でつくる防災冊子(シニア版、女子版)

※現在は配布終了

※シニア版：延べ9,500冊

女子版：延べ4,000冊



#### (2013年3月)

##### 手作りで防災の講座を企画・運営

- ・ 阪神淡路大震災で被災経験のあるメンバーの話の聴いて、災害時のトイレ問題が一番深刻だと認識し、「災害時のトイレ事情とその対策について」の講座を1から企画し開催しました。
- ・ その時の講座で配布した資料を編集し、改変して現在も出前講座や防災イベント等で紹介・配布しています。(詳細は、P7 参照)



# ～暮らしながら備える、身近な防災活動を市民とともに～

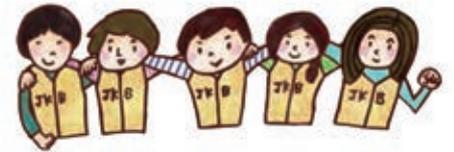
東日本大震災の被災者とともに歩んだ14年、そして「かわさき防災プロジェクト」との活動の様子をご紹介します。

2014～2024 平成26年～現在

JKB

プロジェクト名をそのまま引き継いで市民グループとして、暮らしにあわせた身近で続けやすい防災をテーマに活動を続ける

「女性の視点でつくるかわさき防災プロジェクト(JKB)」が立ち上がる



## JKBの活動のコンセプト

私たちは防災の分野の専門家ではないけれど、想像力を働かせ、都市部である川崎、そこで暮らすわたしたちのライフスタイルにあった身近な防災・減災の取り組みを実践します。いざという時に自分の身を守り、災害時に受けるダメージを少しでも小さくしていけるよう平時からの活動が大事だと考えています。一人ひとりが防災の主体であり続けること、自助力を高めていくために「まず知る」ことから始めて、「知ったことを周りに発信してもらえようわかりやすく伝える」ことを講座やブース出展などで実践しています。また、女性のエンパワメントにつなげ、地域の女性の防災リーダーを1人でも多く増やしていきたいと考えています。

## 「女性の視点でつくるかわさき防災プロジェクト(JKB)」活動内容

### 1 防災に関する調査研究・情報発信

防災に関する情報収集、基礎調査(ヒアリングや取材、必要に応じてアンケート調査)を実施します。結果をまとめて専門家から助言を得ることもあります。



◀ 防災コラム  
「女性の視点で考える  
防災の知恵袋」

防災ニュースレター▶

SNSで発信! @womenbousai21

### 2 防災講座の企画・実施

テーマを決めて災害時の事情とその対策について、暮らしの身近な課題の解決につながるような講座を企画します。ライフステージや家族構成、居住形態等により、備え方は異なるので多様性にも配慮しながら企画内容を検討しています。



例えば、トイレや衛生・防犯対策など。

### 3 出前講座やイベント出展活動

川崎市内で出前講座として、地域の勉強会やイベントへ出張しています。例えば、高齢者のひとり暮らしの交流サロンや防災をテーマとした勉強会、小学校の総合的な学習の授業など。学習会やイベント出展を通じて女性の視点からの防災活動を紹介します。



## JKB 市内在住のサポーターを募集中

### JKB サポーターになるには?

#### お問合せください

興味がある、もしくは、詳しく知りたい方は下記までメールでご連絡ください。

✉ [jkb201209@gmail.com](mailto:jkb201209@gmail.com)

#### 勉強会へ参加

まずは、防災勉強会へ参加して知識を習得。メンバーとの体験&交流会などで参加を検討いただくことも可能です。

#### サポーターとして地域で活動

勉強会を修了し、正式に申込みすると、修了証と名刺をお渡します。勉強会やイベント出展などに参加して活動中。



### 地域での活動にいかせるサポーターのメリット

- ①無料で川崎市男女共同参画センターから防災ゲームやグッズの貸出し
- ②勉強会や研修会の優先参加 (テーマ例: 平時の備え方のコツや避難所運営に役立つ訓練アイデアなど)
- ③グループLINEで情報交換、サポーター交流会

“平時にできないことは災害時にはもっとできない”

## 川崎市男女共同参画センターの 普段の防災活動への関わり



平時と災害時はひと続きです。性別にかかわらず、いろいろな立場の方が参加し、暮らしの困りごとや不安を口に出すことができる状況を作り、想像力を働かせながら、知恵と工夫をわかちあうことで災害ダメージを小さくしたいと考えています。一人ひとりの多様さ、男性・女性といったカテゴリーを単一的に捉えることなく、その中の多様性、例えば、女性であることに加え、外国人であること、障害があること、高齢であること等で複合的・交差的な困難を抱えることについて理解し、性別を始めとする様々な要因によって一人ひとりの課題やニーズ等が異なることを意識して防災の取り組みも推進していく必要があります。川崎市男女共同参画センターでは、男女共同参画の視点から次のような取り組みを年間を通じて行っています。

### 取り組み1

## 防災訓練や防災イベントのほか避難所の運営や開設訓練で

川崎市では区ごとに年2回行っている区総合防災訓練のほか、市主催の「備えるフェスタ」も実施されています。川崎市男女共同参画センターでは、7区すべての総合防災訓練へ年1回ずつ出展し、展示を通じて平時の備えについて紹介しています。また、男女共同参画の視点で運営する避難所運営ガイドの紹介や避難所チェックリスト、避難所運営会議や避難所開設訓練などで利用できる訓練メニューの紹介、避難所運営ゲーム(HUG)を利用した研修を受け付けています。



### 取り組み2

## 男女共同参画の視点からの 防災勉強会・研修会

川崎市・区の危機管理部門と連携し、自主防災組織への研修会や職員向け研修会なども行っています。また、様々な分野の専門家や団体機関の力もお借りし、男女共同参画の視点からの防災についての基礎知識を習得する座学とワークショップの連続講座を開催しています。

#### 【参加者の声】

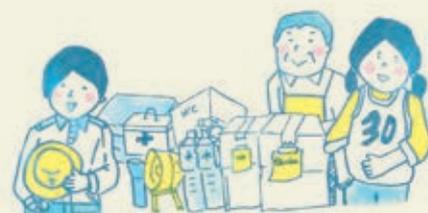
「どこかで人任せにしていた。でも、他の参加者や講師の話を聞いて、防災委員会を立ち上げてみようと思った」(50代・女性)

「災害時の暴力防止対策には男性の理解と協力が欠かせないという話を聞いて、避難所運営について改めて検討しようと思った」(60代・男性)



## 数字で考える防災についての豆知識

川崎市の人口を見てみるとおおよそ半数は女性。避難所運営会議における女性委員の割合について宮前区では令和6年1月現在で31%（委員数546人のうち、女性が169人）※となっています。性別にかかわらず地域の防災活動において活動できる女性たちが引き続き増えるよう後押ししていきます。



※出典：令和5（2023）年度 第11期川崎市男女平等推進審議会 ヒアリング結果報告書

# お手軽！ 活用法

男女共同参画の視点からセレクトした  
防災に関連する本や雑誌、制作した冊子や資料を  
団体・グループに貸し出します。



## シニアシングルサバイバル読本



発行：2020年2月/A4サイズ・26頁/配布部数：9,000冊

ひとり暮らしの高齢者の増加に伴い、現在、シングルであっても、そうでなくても、いざという時に受けるダメージを小さくするためのヒントを見つけて実践してほしい、そういう願いを込めて女性の視点からシニアのひとり暮らしの防災冊子としてまとめました。暮らしながら備えるヒント、離れて暮らすご家族や友人、祖父母、地域のひとり暮らしの高齢者をサポートしている方におすすめ。



[https://www.scrum21.or.jp/issue/sinior\\_single\\_bousai](https://www.scrum21.or.jp/issue/sinior_single_bousai)

## 女性の視点でつくる防災「これで安心トイレ対策編」



発行：2019年2月/A4サイズ：17頁/配布部数：1,350冊

すべての人に起こる生理現象である「排泄」と「トイレの問題」の深刻さと対応方法について調査し、その結果から見えてきたものを冊子としてまとめました。トイレ問題を自分の問題として捉え、解決していくことで自助力の向上につなげ

よう、市民の皆さんとも共有していこう、という思いで女性の視点で作る川崎防災プロジェクトメンバーが手作りした資料です。



[https://www.scrum21.or.jp/disaster\\_prevention/jkb](https://www.scrum21.or.jp/disaster_prevention/jkb)

## 男女共同参画の視点でつくる避難所運営ガイド



発行：2014年4月/A4サイズ・24頁/配布部数：3,500冊

避難所の運営について知りたい方や自主防災組織のメンバーの方向けの冊子です。避難所開設・運営のためのマニュアルづくりや改訂、日頃の防災訓練の参考にしていただくために、「男女共

同参画の視点から避難所運営を考えるためのガイド」として作成しました。



[https://www.scrum21.or.jp/issue/oparation\\_guide](https://www.scrum21.or.jp/issue/oparation_guide)

# 「防災ポーチ作り講座」を実施しました！

講師：上園智美さん（防災士）

## お月さまカフェとは？

シングル女性が気軽に立ち寄れる居場所カフェ。生活する中で不安に思うことを専門相談員に気軽に相談できるコーナーのほか、ご飯を食べたり本を読んだり、手芸の体験をしたり思い思いにすごせる場所です。

まずは、上園さんよりいざという時のために知っておきたい・備えておきたいポイントをお話いただきました。

「災害でどうなるかを想像し、その時どうするか、その前にどんな準備しておくか？」

「今できる備えのポイントは？」

「避難所に行けばいい？避難所ってどんなところ？」

過去の災害やその後の避難生活で見えてきた課題などもお話いただくなかで、具体的に「もし自分が被災したら」という状況を想像しながら学ぶことができました。



## 防災ポーチとは？

被災直後に必要となるものをコンパクトにまとめたもの。日々持ち歩くことで、いざというときにも安心です。

**連絡や情報収集に必要な物:** 予備バッテリー&ケーブル、非常時の連絡先リストなど

**自分の身を守る物:** ホイッスル、ウェットティッシュ、マスク、生理用品・おりものシート・尿取りパッド、携帯トイレセット、飴やチョコ

このほかに、ご自身の飲んでいる常備薬なども入れておくと安心です。

また、被災したあとや避難生活では精神的な負担や不安感もどうしても大きくなってしまいますので、「安心するための物」を入れておくこともおすすめのこと。



## 上園さんからの ワンポイント アドバイス

カフェに参加されたみなさんには、サンプルとして私の防災ポーチも見ていただきましたが、パツと見ると化粧ポーチかな？と思われたと思います。

ポーチには、私にとって大事な物として、①爪が割れやすいので爪切り、②よく虫に刺されるので虫刺されの薬、③喉が弱いので喉飴、などを入れてあります。友達に教えてもらった、2~3mに切ったガムテープを5~6cmにクルクル巻いたものも、小さなジッパー付き袋に入れて持っています。

防災ポーチは、あまり欲張らず普段持ち運びやすいサイズにするのがポイントです。「なんだか重いなー」と思ったら、中身を全部広げて、あまり使わないものは出したり、期限があるものは入れ替えたりして、見直しをオススメします。

また、何かあったときにあなたが見て安心できるもの、見ると頑張れるものも忘れずに(家族の写真でも押しグッズでもOK!)。ポーチを押しグッズにすると、持ち運びも苦になりませんよ♪

# 防災の おすすめ情報



「役立つ防災の冊子や本についてまとめて教えてほしい。」  
そんな声を受けて、危機管理本部で川崎市の防災についての情報を発信している小林さんに教えてもらいました。

## 『かわさき防災アプリ』



『かわさき防災アプリ』では、ハザードマップや避難情報、日頃の備えを簡単に確認できます。



App store



Google play

## 『危機管理本部 公式X』

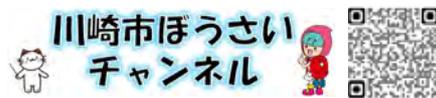


川崎市に関する防災、気象、災害等の情報を発信しています。



## 『川崎市ぼうさいチャンネル』

防災学習動画やイベントの様子を撮影した動画をお届けしているYouTubeチャンネルです。ぜひチャンネル登録をお願いいたします！



## 『防災ポータルサイト』



川崎市の防災に関する情報を集めたウェブサイトです。災害発生時には、緊急情報、避難所開設情報などを発信します。



## 『ハザードマップ』



お住まいの地域によって災害リスクは異なります。あらかじめ各種ハザードマップを確認しておきましょう。ハザードマップは「かわさき防災アプリ」と「防災ポータルサイト」でもご覧いただけます。

## 『備える。かわさき (マガジン)』



「無理なく・無駄なく備える」ためのヒントを発信する防災マガジンです。他の媒体ではあまり触れないような情報がたくさんあります！



## 川崎市内で防災活動に取り組んでいる市民グループがおススメする冊子・サイト



全部で3冊。  
こちらからCHECK!

<https://magokoro-kitchen.org/>



まごころキッチン  
プロジェクト  
災害時地域ネットワーク

## 『もしもの時に“おいしく”備えるレシピブック』

「まごころキッチンプロジェクト」代表 小野さくらさんに、家庭や地域での冊子の活用方法をうかがいました！

**家庭では** まずはお子さんの食べたいもの、お好きなメニューから作ってみるのをオススメしています。普段食べ慣れていないものをいきなり食べるのは大人でも、一瞬手が出ませんよね。

このレシピ冊子は平常時の調理と災害時の調理の違いで同じものが食べられますが、多少、材料が違うメニューもあります。

できるだけ簡単に、でも基本的な調理方法は記載していますので、アレルギーがある方はお好みの材料にアレンジ、災害時は手元

にある材料でアレンジができるように、普段から調理していただけたらと思います。

**地域では** ひとりで調理するより絶対楽しい防災訓練になりますね。各家庭にある材料を持ち寄り、いろんな材料が集まると、普段自分では作らない味のメニューが出来上がるかもしれません。

誰かが作るのを見ているより、自分も参加して作ってみることによって、災害時の調理を学べるのではないかと思います。

備蓄に関していえば、配布された備蓄リストの通りに備蓄しているから大丈夫!ではなく「自分の備蓄」にアレンジすることで、またひとつ災害・防災に関する意識が高くなり、実際に災害が起きた時の「モノの備えとココロの備え」に繋がっていくのではないのでしょうか。備蓄リストにないモノでも、「自分に必要なモノは全て防災備蓄品」です。

災害が起きた時はどんな人でも困るんです。み

んなが困っているのに自分が困っているからと言って、周りの人に頼っても自分の思ったような対応はしてもらえない可能性もありますね。

災害が起きた時のそんな状況のことを考えながら、これからもいろいろな講座を開催し地域の方々たくさんお話をしていけたらと思っています。





# 性のあり方を分解！



## がもっとわかる基礎知識



LGBTQ+や"多様な性のあり方"について耳にする機会は増えてきましたが、「自分には関係ない」と感じる人も多いのではないのでしょうか？  
実は性のあり方は特別な話ではなく、私たち一人ひとりに関係するテーマです。このページでは、そんな誰もが持つ性のあり方を分解しながらLGBTQ+の基礎知識を解説します。自分を深く理解し、大切な誰かに寄り添うヒントにしてみてください。

## 性のあり方は分解できる！

一人ひとりの性のあり方を構成する要素は次のように分解することができます。

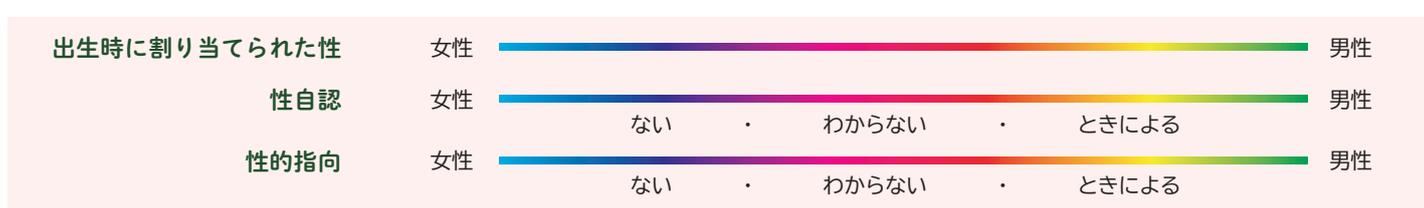
出生時に割り当てられた性	男性か女性のどちらか
性自認	自分自身がどのような性別であると認識しているか(男性、女性、ノンバイナリーなど)
性的指向	どのような性のあり方の相手に恋愛感情や性的な魅力を感じるか/感じないか(同性愛、異性愛、バイセクシュアルなど)

生まれたときに割り当てられた性と性自認が一致している人のことをシスジェンダーと呼び、一方生まれたときに割り当てられた性と異なる性自認を持つ人のことをトランスジェンダーと呼びます。

この性的指向(Sexual Orientation)と性自認(Gender Identity)の

頭文字をとって、**SOGI**(そじ)という言葉が使われる機会も増えてきました。これは、ざっくり「性のあり方」と同じような意味を持ちますが、「一人ひとりの性のあり方はこうした要素が組み合わさってできている」ことを踏まえた言葉でもあります。

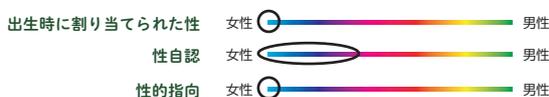
## 自分のSOGIを分解してみよう！



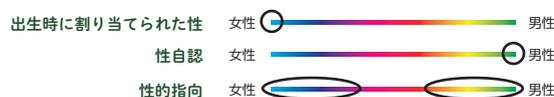
例えば…



- ・シスジェンダーの女性
- ・レズビアン(女性の同性愛者)



- ・トランスジェンダーの男性
- ・バイセクシュアル(2つ以上の性のあり方に魅力を感じる性的指向)



## L・G・B・T以外にこんな性のあり方も！

**【ヘテロセクシュアル】** 異性に対して性的な魅力を感じる性的指向(異性愛者)

**【ノンバイナリー】** 既存の男女二元論には当てはまらない性自認

**【アセクシュアル】** 性的な魅力を誰に対しても感じない/感じづらい性的指向

ここで紹介した性のあり方はごく一部。これ以外にも性のあり方はグラデーションのように多様に広がっています。そして上に示したグラフでは表せない性のあり方を持つ人も、また性のあり方を「決めない・決めたくない・決められない」人もいます。

今後も性のあり方を表す名前が増えるかもしれませんが、それは「これまで名前がついていなかった性のあり方に名前が与えられるようになった」というだけのこと。

大切なのは、すべての名前を正確に覚えることではありません。それよりも、「人それぞれ違った性のあり方を持ち、自分にとっての当たり前が相手にとってそうではない場合がある」という視点を持つこと。そして、自分とは異なる性のあり方を尊重する姿勢を忘れないことが、何よりも重要です。

## 国際女性デーに考える、私たちにできること

タイに来て1年以上が経ちました。タイでは例年12月から1月にかけて「冬」と呼ばれる涼しい季節が訪れます。今年は記録的な寒さとなり、バンコク近郊でも15度近くまで下がりました。北部ではさらに冷え込み、地元ニュースでも大きな話題になりました。3月は暑季と呼ばれ、猛暑の季節ですが、花が咲き誇る美しい季節でもあります。

記録的な寒さのほかに、記録的な出来事がもうひとつ。タイで昨年成立した同性婚に関する法律が、今年1月23日に施行されました。アジアでは台湾、ネパールに続き、東南アジアでは初めてです。SNS上では同性婚の実現を祝う投稿で溢れ、テレビのニュースでもカップルが婚姻届を提出する様子が放送されました。これが広くアジア地域における婚姻の平等の後押しになることを願っています。

3月8日は国際女性デーでもあります。私が所属する大学でも、国際女性デーを前に様々なイベントが学生主体で実施され、授業でも取り上げられるなど、アジア地域のジェンダー平等について考えさせられる機会が多くありました。その中でも今回はミャンマーの状況について紹介したいと思います。

ある日、クラスメイトのひとりが「昨日、故郷の町で戦闘が始まったらしい。家族は無事だったけれど…」と話してくれました。ミャンマーでは2021年の軍事クーデター以降、深刻な政治的不安が続いています。民族間の対立やロヒンギャ問題も根深く、昨年には徴兵制の実施が発表されたことで国内の抑圧的な状況はますます強まっているようです。多くの人々がタイを含む近隣諸国に避難していて、私もタイで勉強する中で多くのミャンマー出身の学生と出会いました。紛争状況に加えて2023年、2024年と連続で大型サイクロンの被害もあり、自然災害が人々の

生活にさらに厳しい影響を与えています。友人の多くも故郷には戻らず、異国での生活を模索しています。

民族や宗教などさまざまな要素が複雑に絡み合う状況は、一見ジェンダーの問題と関係ないように思えますが、実は深く関連しています。災害や紛争などの混乱した状況では、特に女性や子どもたちは暴力や差別の被害を受けやすくなります。またミャンマーで徴兵制の実施が発表されたように、男性や男児が軍隊にリクルートされるなどの「男らしさ」に起因する暴力の問題も顕著です。

こうした問題は遠い国の話に聞こえるかもしれませんが、日本でも多くの課題が残されています。最近も、女性に対する暴力の話題が大きく報じられています。また、日本は自然災害の多い国でもあります。被災後の混乱した状況でジェンダーに基づく暴力をどのように防ぐかは切実な問題です。

一方でそのような問題に対し「NO」を示す声も増えてきました。また、同性婚についてはタイが先行する形になりましたが、日本でも婚姻の平等を求める動きが進んでいます。誰もが安心して生活を送れる平和な世界の実現に向けて私たちにできること、私たちの地域社会でできることを、国際女性デーをきっかけに考えていきたいと思えます。身近な場所でジェンダー平等を推進する小さな行動が、国際社会とつながる一歩になるのではないのでしょうか。



あらかわ たいき  
荒川 泰輝

1993年、茨城県生まれ。早稲田大学卒業、英国・サセックス大学ジェンダー・暴力・紛争修士課程修了。男女共同参画センター等での勤務を経て、現在タイにある大学院にてジェンダーと開発学の修士課程に在籍中。

## 「困難な状況にある女性への支援物資の募集」に関するご報告

すくらむ21では、国が主唱する「女性に対する暴力をなくす運動」（11月12日から11月25日）にあわせ、11月1日から11月30日まで、DV（ドメスティック・バイオレンス）被害者とその子どもたちをはじめ、経済的に困窮し困難な状況にある女性たちが安心して新たな生活を送ることができるよう支援物資の募集を行いました。

今年度は、10の団体から、寄附金62,000円とご寄贈品を受け賜りました。寄附金については、センターが品物を購入し、緊急避難施設（シェルター）や母子生活支援施設、自立援助施設のほか、センターが実施する事業や川崎市社会福祉協議会の事業と連携して、DV被害者など経済的に困難な状況にある女性や子どもたちへ提供しました。寄附金による購入品（166点）とご寄贈品（2,486点）をあわせて、合計2,652点を支援先へ届けました。皆さまより心温まるご支援を頂戴しましたこと、心から御礼申し上げます。



## 女性活躍を推進している市内企業

### 「かわさき☆えるぼし」認証企業が140社を突破しました！

川崎市では、女性の活躍推進、ワーク・ライフ・バランスを推進するため、働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる中小企業を「かわさき☆えるぼし」認証企業として認証し支援しています。今年度は令和3年度に認証した企業のうち42社の更新に加え、新たに16社を「かわさき☆えるぼし」認証企業として決定しました。昨年度に認証した企業と合わせて146社が認証企業となりました。女性の採用拡大や働きやすい企業としてのイメージアップなど本制度のブランドイメージの活用を目指して申請する企業が多く、女性活躍推進の取組が広まりつつあります。

認証企業一覧は、川崎市ホームページを御覧ください。

<https://www.city.kawasaki.jp/250/page/0000123776.html>



### 令和7年度も認証企業を募集します！皆さまも認証企業に仲間入りしてみませんか？

①対象 常時雇用従業員の数が300人以下で、川崎市内に事業所又は事務所を有する企業等

②認証期間 更新企業5年間、新規企業3年間

③認証取得によるメリット

- ・ 認証マークを名刺や企業ホームページ等で使用できるなど、「かわさき☆えるぼし」認証企業であることのPR
- ・ 川崎市ホームページ等での取組紹介
- ・ 人材確保支援（就職説明会等の情報を積極的に提供）
- ・ 公共調達の入札等において利用する主観評価項目の付与



事例集で企業のPRも！  
（令和6年3月発行）

【問合せ】 川崎市市民文化局人権・男女共同参画室  
TEL: 044-200-2300 FAX: 044-200-3914

かわさき☆えるぼし

検索